

ONE for ALL 2

Vol.76

月号

J-LEASE COMPANY NEWSLETTER

2020 February

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ジェイリース株式会社は、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた取り組みを行っています。



【社長近影/令和2年1月6日 大分本社にて】

title : 年頭の社長訓示

皆さん、あけましておめでとうございます。
爽やかな新春をお迎えのことと存じます。
これより年頭の社長訓示を行います。

昨年末の日経平均の終値は23,656円、大発会より3,641円高で終了しました。総じてFRB3回の利下げによる緩和再開が株価を押し上げたという評価が多いようです。

また、今年の景気動向につきましては、日中貿易戦争の行方が今年の景気の鍵を握る、またはアメリカとイラン、アメリカと北朝鮮の軍事的衝突を要因とする不安定な景気動向が続くと予測する反面、堅調な設備投資を始めとした内需が政府の経済対策の下支え役になることで、景気の底割れは避けられるという指摘もあります。

我々は外国人の家賃を保証するインバウンド事業も行っております。引き続き景気の動向を注視し、我々の役割を見定めていきたいと考えております。

さて、今年の方針についていくつかお話しさせていただきますと、昨秋に発売開始しましたSシリーズは、改正J-AKINAIと並び、営業ツールの二本柱に成長したと考えております。

このSシリーズ、今までは利便性を全面にセールスしていましたが、今後につきましては「Sシリーズは民法の改正に対応した商品である」ことを、より全面に打ち出していきたいと思っております。

4月に控える民法改正では賃貸借契約時の連帯保証人に保証限度額が設定されるため、大家様、不動産会社様は、年明けから本格的な対応準備に入ります。

営業の皆さんは、Sシリーズが保証人不要の商品であり、申し込み人の信用力を深掘りチェックし、保証人がいなくても申し込み人の良さを引き出す、改正民法にシフトした商品であることをアピールしていただきたいと思っております。

次に、債権管理の皆さんにおかれましては、本年施行される改正民事執行法をしっかりと勉強し活用していただきますようお願いいたします。

改正民事執行法は債務者が執行に協力しない場合に刑事罰が課されること、裁判所の判決に加え、契約時に締結した公正証書が新たに執行可能な債務名義になること、更には、債務者所有の不動産や金融機関の預金口座番号等の情報が得られること等々、法的回収の効果が期待できるようになりました。

この改正民事執行法を上手に行使している会社は、

債権管理において大きなアドバンテージを得ることができそうです。

債務者個々の状況に応じ、保全と各種執行のタイミングを図り、早期の回収に結びつけ、数字を出していただきたいと思っております。

また、当社のコンプライアンスは日常的、恒常的に徹底遵守されなければなりません。

各地区担当はコンプライアンスの重要性を社員の皆さんにしっかり指導するとともに、各部門と調整の上、定期的な研修を行ってください。

さて、私は本年度の年頭訓を「不易流行(ふえきりゅうこう)」といたします。

これは松尾芭蕉の俳諧理念の1つであります。[いつまでも変化しない本質的なもの(不易)を忘れない中にも、新しい変化(流行)を取り入れていくことが重要である]という考え方です。

我々は、今までの成功体験を参考にしつつも、その上に立って今後のビジネスを柔軟な発想で組み立てる必要があります。

中でも早急に必要なのは、縦割りの各部署に実行力のある横串を入れる連携の強化であります。

同時に、業務の効率化はジェイリースの命題です。

各部門は既に昨秋から改善に着手していると思いますが、古い仕組みやしがらみを捨て、継ぎ足しではなく、ゼロベースで見直すことが肝要です。

社員皆さんの声に耳を傾け、他部署との垣根を外した連携がもたらす業務効率、人員効率の向上を達成してください。

2020年は、創立20周年に向けての改革元年であります。

自身とステークホルダーの幸せの実現のため、「不易流行」を本年の旗印とし、共に前進いたしましょう。

これで年頭訓を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

令和2年1月6日
ジェイリース株式会社
代表取締役社長兼会長 中島 拓

トップ会談 ANNEX

SUNSHOW GROUP 代表 西岡 徹人様



寺田 有希実(てらだ ゆきみ)様

2008年 三承工業株式会社に入社
2013年 出産し、1年後に復帰
2017年 管理部 部長就任
2018年 ダイバーシティ推進室 室長就任
2019年 一般社団法人WEP代表理事就任
☆各地セミナー等で講師としてもご活躍中!

西岡 徹人(にしおか てつひと)様

SUNSHOW GROUP 代表
三承工業株式会社 代表取締役
株式会社クレドホーム 代表取締役
株式会社バリュークリエーション 代表取締役
一般社団法人 SDGsプラットフォーム 理事
一般社団法人 WOMAN EMPOWERMENT PLATFORM 理事
一般社団法人 岐阜経済人協議会 理事
次世代SDGsプラットフォーム キャプテン
☆西岡様の経歴については、7ページでもご紹介します。

中島 土(なかしま つち)

ジェイリース株式会社 取締役副社長執行役員
公益社団法人 日本青年会議所 副会頭
中央大学 卒業

皆さん、こんにちは! 秘書課の中島です。

今号の会談は、中島副社長によるトップ会談ANNEXです!

記念すべき第1回目の会談相手は、日本国政府の「第2回ジャパンSDGs(エスディー・ジーズ)アワード」にて、建設業で初めて特別賞を受賞され、また、SDGs推進本部 次世代SDGsプラットフォームのキャプテンとしても活躍される、SUNSHOW GROUP代表の西岡徹人様です!

更に、同社ダイバーシティ推進室長兼女性活躍・働き方改革担当としてお勤めになり、また、一般社団法人WEP^(*)の代表理事でいらっしゃる寺田 有希実様にも対談にご参加いただきました。

おふたりにお会いするために、中島副社長と一緒に岐阜県にある「SUNSHOW.BASE」を訪問いたしました。

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2030年までに世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために、2015年9月に国連加盟の全ての国が合意した17の目標のことです。

貧困問題をはじめ、気候変動や生物多様性、エネルギーなど、持続可能な社会をつくるために世界が一致して取り組むべきビジョンや課題が網羅されています。

中島副社長

本日はお忙しい所お時間をいただきありがとうございます。

西岡社長には、私が所属する、公益社団法人 日本青年会議所^(**2)で大変お世話になりました。辛いとき、大変なときにも2人で支え合いながら乗り越えたことを思い出します。

西岡社長

こちらこそ、青年会議所では助けられてばかりでした。本日は遠路はるばる岐阜までお越しいただきありがとうございます。

中島副社長

西岡社長とは以前より親しくさせていただいていましたが、岐阜にお邪魔するのは初めてです。本日の会場SUNSHOW.BASEですが、素晴らしい施設ですね。

西岡社長

ありがとうございます。この施設は2018年3月にオープン、2018年10月に壁にSDGsアイコンを施す等のリニューアルをし、SUNSHOW.BASEを利用されるお客様へ、SDGsに対する関心を高めていただき、個人レベルで社会課題の解決に向けた活動を行うための情報発信プラットフォームにすることを目的としています。

中島副社長

SUNSHOW GROUPさんと言えば、やはりSDGsですね。2018年には「第2回ジャパンSDGsアワード」の特別賞を受賞されましたが、受賞されたポイントをお聞かせいただけます

か。

西岡社長

受賞のポイントは大きく3つあります。

1つめは、SDGsの「GOAL1: 貧困をなくそう」の活動として、弊社が提供している「SUNSHOW 夢ハウス」により、低価格高品質な注文住宅の提供で、生活の質の向上と、貧困のスパイラル脱却を支援したこと。2つめは「GOALS5: ジェンダー平等を実現しよう」の活動として、女性だけの工務店「クレドホーム」の展開など、ジェンダー平等(性別にとらわれず誰もが活躍できる)のチーム夢子による職場環境の整備を進め、生産性が向上したこと。3つめは、その有用性や実践ノウハウを全国に発信したこと。以上のことを評価いただきました。

中島副社長

なるほど。事業ではお客様に必要とされるサービスを提供して社会課題を解決し、社内では誰もが活躍できる環境を構築されている。素晴らしい会社ですね。

西岡社長

そう言うただけで光栄ですが、私は数年前までは利益だけを追求し、激しい言葉で社員を動かす、パワハラ社長だったんです。

そんな私が変わるきっかけになったのは、青年会議所です。そこで、人との関わりや活動を通して、自分は人に押し付けてばかりの傲慢な人間であったことに気が付きました。

その後、様々な研修会等に参加し、これまで私が作り上げ



て来た会社の風土は「コンクリートの土壌」であったことに気が付きました。

これは、豊かな土壌があれば貧相な苗でも大きく育つ、しかし、コンクリートでできたような土壌であれば、どれだけ良い苗を入れても根も張らないということ。その土壌を会社の風土、苗を人材や事業に置き換えると、今の会社にどれだけ優秀な人材を入れて、どれだけ立派な事業を行っても枯らしてしまうだけということです。

その立派な土壌を築くために、社内風土改革を決意しました。

中島副社長

力だけでは人を動かすことはできないということですね。社内風土改革は、具体的にどのようなことを行ったのですか。

西岡社長

初めに私自身が変わる、その覚悟を見せるために、社内のトイレ掃除を始めました。また「ありがとう」を伝え合う風土を作るために、「ありがとう朝礼」を導入しました。ありがとう朝礼とは、社員同士で日ごろの感謝を伝え合う朝礼です。また、朝礼に参加できない現場の社員にも「ありがとうカード」で感謝を伝えました。

しかし、これまでは社員へ怒号を響かせていた私が、誰よりも早く出社しトイレ掃除をしたり、朝礼で「みんな、ありがとう♡」なんて言い出したりするものですから、気味が悪いと辞めていく社員も多かったですね。

寺田室長

本当に社長の変わり具合には驚きました。「会社が倒産するから、その前の最後のご奉公なのではないか」「変な宗教に入ったのではないか」などなど社員で噂していたほどです(笑)。

中島副社長

たしかに急激に人が変わることで、感心よりも、戸惑いの方が強かったのかもしれないね(笑)。

しかし多くの社員が辞めていっても改革が続けられた、その勇気は凄いですね。

西岡社長

はい。続けていると少しずつ変化が見られるようになりました。今までは、トイレ掃除を見ているだけだった社員が、率先して社内の掃除をするようになったり、また、感謝の気持ちを伝え合うことで、その人の良い所がわかるようになり、社員同士が助け合ったり、無駄な仕事を減らすことにも繋がりました。女性活躍推進という面では、改革のきっかけとなったエピソードがあるんです。

寺田室長

ちょうど会社が変わり始めた頃に子どもを授かりました。当時は仕事と子育ての両立は難しい職場環境でしたので、出産前に退職する予定でいました。すると社長は「退職すると



いう選択肢をなくして、続けられる方法はない?」と言ってくれたんです。悩みましたが、そんなことを言ってくれた気持ちに応えたいと思い、会社に残ることを決めました。出産後、さっそくカンガルー出勤を始めました。子どもは泣いたり騒いだりするので、正直、他の社員は迷惑だったのではないかと思いますし、私自身、仕事に子どもとどこまで触れ合って良いのかわからない状態でした。そんなある日、子どもが泣いていると、社長自ら忙しい中子どもを抱っこしながら仕事をしてくださったんです。それにより、仕事の中でも子どもをあやしたりして良いんだ!と気持ちが楽になったことを覚えています。それから社長は積極的に子どもの世話をしてくれ、それをきっかけに社内の雰囲気が変わりました。今では若い男性社員も、「子育ての予行練習!」と言ってミルクを作ってくれたりするんです。

中島副社長

家族のように助け合う風土ができているのですね。

西岡社長のブログを拝見すると、子どもたちが社長室のソファで飛び跳ねていますよね。

素晴らしい職場環境だと思います。

寺田室長

はい。仕事と子育てが両立でき、とても嬉しかったです。そして、そんな環境を構築してくれた会社に恩返しをしたいという想いを抱くようになりました。そこで、私にできることをと、声掛け運動から始めました。

ノー残業デーを呼びかけたり、社内の課題解決のために意見を書き込んでもらうボックスを設けたりしました。そこに寄せられた問題を女性社員で話し合い解決に導く、その活動が徐々に大きくなり、社内の女性だけでなく、協力業者の奥様や、住宅のご購入者様まで巻き込んで、「チーム夢子」というチームを作りました。今では一般社団法人WEPとしても、社会の課題解決、女性活躍推進のための活動を行っています。

中島副社長

会社からしてもらったことに感謝し、会社に恩返ししようという気持ちで、自分のできることを返していった、それでお互いに高めあうことができた。その大元にあるのはやはり感謝の心なんですね。

そうやって会社が大きく変わっていく中でSDGsに出会い、その理念に、大きな親和性を感じたということですね。

西岡社長

はい。青年会議所での運動を通して、社会の課題を解決することの意義を学びました。「SUNSHOW 夢ハウス」は「すべての人にマイホームを!」を合言葉に、低価格・高品質な住宅を、返済にゆとりのあるプランで提供している事業です。マイホーム取得が困難なひとり親世帯や、低所得層や外国の方でもマイホームを持てるようになりました。生活品質の向上、マイホームの夢の実現を支援、更には、高額な住宅ローン

で生活費を圧迫することを避け、余ったお金で、次世代を担う子どもたちへの投資に繋げ、子どもの健康面や教育面における環境の充実、家族の幸福度を上げ、子どもたちが社会に希望を持てる街にしたいと考えています。それらのことに貢献したいという想いが詰まった商品の提供をさせていただいています。

中島副社長

親世代が希望を持てる社会であれば、その親を持つ子どもたちも希望を持てますね。そうやって社会の課題を解決し、活気のある豊かな街づくりに貢献する。これこそが仕事を通して社会に貢献するということですね。

西岡社長

更に、建設業界では、もちろん全てではありませんが、元請け会社の立場は強く、以前の私たちのような下請け業者は、中々利益が出にくいような仕事も引き受け、そこから更に自社の利益を確保し、大工さんに指示をするといった悪循環があり、誰もが疲弊していました。大工さんは自分のお子さんに「俺の仕事は、毎日、木を持って、釘を打つことだ」と言っていたほど、仕事に誇りを持ってない状態だったんです。しかし、「SUNSHOW 夢ハウス」にご理解いただき、みんなでプロジェクトを成し遂げたとき、仕事に誇りを持ってなかった方々に「自分は人のため社会のために働いてるんだ」という感情が芽生えます。それが全員の働き甲斐に繋がり、結果として会社の更なる業績向上にも繋がりました。

中島副社長

素晴らしいですね。利益とは人のため社会のために活動をしていれば自ずとついてくるもの。さらに、社員の皆さんが仕事に誇りを持ち、働き甲斐を持てる環境を社員の皆さんと創ることで、より良い会社生まれるということですね。SDGsの「誰も取り残さない」という理念にもぴったりと当てはまります。

西岡社長

はい。これらの活動はSDGsが広がる前から取り組んでいましたが、SDGsの認知により弊社を知っていただく機会も増えました。

中島副社長

そうだったのですね。
今後ますます、SDGsを通じて、女性活躍推進や働き方改革は社会に浸透していくと思いますが、個人からも始められることについて、読者の方へメッセージをお願いします。

寺田室長

女性活躍推進において重要なことは、周囲の方とのコミュニケーションだと思っています。**女性がキャリアを積んでいく上で、結婚、出産のライフイベントはターニングポイントになりますし、その状況になったとき仕事はどうなるのか、不安な女性も多いと思います。**ですが、周囲とのコミュニケーションを密にとり、互いを尊重し、理解し合えば、助け合いの風土が築かれます。女性ならではの意見、アイデアは社会になくしてはならないものです。男性と女性が仕事で張り合う社会ではなく、**男性と女性が力を合わせ得意なことを活かすあう会社と地域を創ってまいりたいと思います。**

西岡社長

繰り返しになりますが、あらゆるパートナーと連携し社会課題を解決することで、結果として、お客様と自社、そして地域の発展にも繋がります。多くの企業が自社の風土をより良くすることで、誰もが活躍できる社会を創っていくことにも、企業活動を通じて貢献していきたいと思っています。本日は

ありがとうございます。

中島副社長

本日は誠にありがとうございました。御社と社員皆様の益々のご活躍をお祈りしております。

※1 一般社団法人 WOMAN EMPOWERMENT PLATFORM (通称:WEP)は、三承工業株式会社にてカンガルー出勤を実践し、一般的に、男性の活躍が中心といわれる建設業の中で、女性も働きやすい環境へと風土改革を行ってきた経験を活かしたいという想いのもと立ち上げられた団体。SDGs「GOAL5:ジェンダー平等を実現しよう」の達成を押し進め、同時に「GOAL8:働きがいも経済成長も」の促進も行うことで、持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働き甲斐がある仕事)を推進している。

※2 日本青年会議所は、40歳までの青年経済人が「奉仕・修練・友情」の3信条のもとに、社会課題を解決するために様々な事業を行う団体。全国約3万2千名の会員で構成され、麻生太郎副大臣や小泉純一郎元総理をはじめ、現在の大臣の9名が青年会議所出身者である等、政財界に多くのリーダーを輩出している。

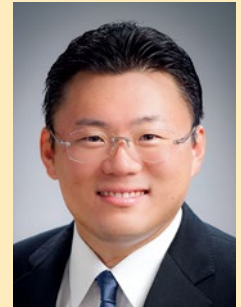
《対談を振り返って》

SDGsを経営のど真ん中に据え、あらゆるパートナーと連携し社会課題を解決するビジネスを通じて、持続可能な地域の構築に貢献し続ける西岡社長と、寺田室長をはじめとするSUNSHOW GROUP様の経営理念に深く感銘を受けました。

当社も、保証ビジネスを通じて、「GOAL11:住み続けられるまちづくりを」、また、自社サッカーチームの活動を通じて、「GOAL3:すべての人に健康と福祉を」をはじめとする多くのゴール達成に貢献しています。

企業として、2030年までに達成すべきSDGs17のゴールに貢献することは、決して綺麗ごとではなく、持続可能な地域とそこから繋がる世界を作り、ひいては、企業の持続可能性を最大化することに繋がります。

当社も、SDGsの「誰も取り残さない」という理念を大切に、女性をはじめあらゆる社員の皆さんが活躍できる企業へ更に進化していきたいと、おふたりの話を伺い決意を新たにいたしました。



《中島の感想》

今回伺った[SUNSHOW.BASE]にもカンガルー出勤をされている社員さんがいらっしゃり、子どもがママさん社員の足に抱きついていたり、会談をしているすぐ横で子どもが遊んでいたり、初めて見る光景に驚きましたが、自然に馴染んでいる様子に感動いたしました。

おふたりの話を聞いて、社会のため、人のために働くことがどういったことなのか、更に深く学ばせていただきました。この記事を通して私の感じたことが皆さんにも伝わり、お仕事の活力になれば嬉しいです。

西岡 徹人(にしおか てつひと)様

1979年生まれ。
「全ての人にマイホームを!」と、ローコストの注文住宅【SUNSHOW 夢ハウス】を発表。金銭的な都合などでマイホームを持つ夢を諦めてしまった方、一人親家庭の方、外国の方に高品質低価格(700万円台~)の注文住宅を提供、人気のハウスメーカー。子連れで勤務可能なカンガルー出勤、キッズスペース等、女性のライフキャリアステージにあった環境作りを力を入れ、岐阜県ワーク・ライフバランス推進企業として認定される。女性だけの工務店株式会社クレドホームの代表取締役も務める。国連サミットで採択された国際目標SDGsを企業の経営戦略の中核に置き、外務省SDGs貢献コミット企業として認定され、建設業で初のジャパンSDGsアワードを受賞した。



ジェイリース
J-LEASE CO., LTD.